



# げんきな子 H29. 11

## 浜岡東小学校保健室



### 学校保健委員会 みんな幸せ、だから幸せ —“心”についての「とっておきの話」—

10月26日に学校保健委員会を開催しました。今回は、岐阜大学地域科学部教授の近藤真庸先生をお招きし、「みんな幸せ、だから幸せ」というテーマでお話をさせていただきました。



#### ～近藤先生のお話～

これは近藤先生が5年生だった頃のお話です。近藤くんは、ばい菌呼ばわりされていじめられていた「みっちゃん」をかばうことができず、「いじめられないようにしてね。」と言うのが精一杯だった。しばらくしてみっちゃんは転校してしまい、近藤くんは後悔して、「また会おう」と書いた絵はがきをみっちゃんに出した。その後もみっちゃんからの返事はなかったが、近藤くんはずっと後悔し続け、「みっちゃんから返事か来るまでは友だちを作らない」と決めた。ずっと続けていた野球のチームメイトだけがつながりだった。しかし、高校野球で、自分のミスで甲子園出場を逃してしまう。もうここに住んでいられないと思い、夜行バスで東京に行った際に、フォークソングを歌っていたバンドに「ボーカルになってくれ」と声を掛けられる。必要とされる居場所を見つけた近藤くんは、それから、勉強をし、受験をして、東京の大学に進学した。バンドのボーカルとして歌っていたときに、ふと見覚えのある姿を見つけた。「みっちゃん！」と思ったが、違う人だった。みっちゃんと間違えたその女性に、近藤くんは涙ながらにみっちゃんの話をした。成人式が近づいてきた頃、その女性に、「みっちゃんが待ってるかもしれないから行って。」と言われ、実家に帰った。すると、子どもを連れた女性が来ていた。みっちゃんだった。みっちゃんは、「まさのぶくんがくれた絵はがきをずっと握りしめ、いじめに耐えていた。』『死のうと思ったこともあったけど、「また会おう」と書いてあったからそれが支えだった。』『まさのぶくんが街で会ったときに、「みっちゃん」って呼んでくれたのがすごくうれしかった。名前を呼んでくれるってことは、私のことを大切にしてくれるってことだと思った。』と言った。そのことを東京に戻って、みっちゃんの話をしていて女性に伝えると、「実は私も中学2年生のときみっちゃんと同じだった。」と打ち明けてくれた。4年後近藤くんはその女性と結婚し、今では孫も2人いる。みっちゃんが幸せになってくれたから自分も今幸せ。

クラスにさみしい思いをしてる子がいないか。「もし自分だったら、どんな言葉を掛けてほしいか」を考える想像力が大切。みんなのお母さんお父さんも、みんなが、「人の気持ちのわかる子に育ててほしい」と願っている。「みんな幸せ、だから幸せ」と言えるクラスを作ってください。



## 児童感想

心に残ったことを、それぞれ自由に書いてもらいました。

- ・いじめられていた光子さんは、遺書にいじめた子の名前を書いて死ぬことまで考えたけど、そこに名前が書かれた子は自分のしてしまった罪を一生背負って生きていかなければならないので、「みんな幸せ」にはならないと考え、必死でがまんし続けた。その光子さんの姿が心に残りました。
- ・ひであきくんのメモが心に残りました。一つ目が「忘れるな」、二つ目が「死ぬな」、三つ目が「また会おう」、「生まれて初めての友だちへ」と書いてあって、友情が深く感動した。
- ・名前は一人一つの大切な、一番大事な宝物ということが、聴いていて心に響きました。
- ・僕は、相手の気持ちを考えずに、あだ名をつけたりするときもあった。相手のことを思うことが大切だと思いました。
- ・私はよく思ったことをそのまま言うので、言い方に気をつけて、友だちを大事にしなきゃと思いました。理由は、一人でもひとりぼっちになってしまったら、私の心の中では幸せではないので、一人一人を大切にしたいと思ったからです。
- ・「みんな幸せ、だから幸せ」という言葉の意味が、クラスの人が幸せになると自分も幸せになるということだとわかった。
- ・自分のことだけでなく、周りの人、友だち等にも耳を傾けたり、目を向けたりすることは大切だなと思いました。
- ・友だちを大切に、いじめもなくそうと思いました。

心に残ったことは、似ている人もいたけど、みんなそれぞれ違いました。人それぞれ感じ方が違うんだね。その違いを認めるということも、人を思いやるということだね。

## 保護者感想

- ・とても引き込まれて聴いていました。「みんな幸せ、だから幸せ」という気持ちを子どもたちみんなが持ってほしいです。何がきっかけになるかわからないけど、少しの気持ちで救われる子がたくさんいると感じました。
- ・みっちゃんの気持ちを疑似体験できたように思います。人の気持ちを「想像する」子に育ててほしいと強く思いました。
- ・その人の名前を呼ぶことはその人を受け入れていることになるんだなと思いました。
- ・子どもの話に耳を傾けて、子どもの気持ちになって聞いてあげたいと思いました。
- ・家でも、「自分だけでいい」、「自分がよければそれでいい」と思っているような発言が多いので、今回のお話をもう一度家で話し合い、振り返ってみたいです。
- ・いじめられている子を直接助けるのは難しいが、その子に共感してあげる、後ろから支えてあげることができるということを子どもたちに教えてあげたい。
- ・いじめについて考えさせられました。いじめはあってはいけない、他人事ではないです。人の言葉でどうにでもなると痛感しました。
- ・ご自身の体験に常に向き合って生きてこられた先生の一言一言が胸に残りました。人としてどうあるべきかという教育の原点に返ることができたように思います。



### 学校薬剤師さんより

「インフルエンザが流行してきているので、うがい・手洗い・マスク着用などの予防をする。予防接種は報道に惑わされず、まずは病院に電話をして予約ができるか確認する。」との話がありました。

インフルエンザ流行期には、疑わしい症状のある子については、

- ・**感染拡大防止**
- ・**本人の症状悪化防止**

のため、早退の措置をとらせていただきます。朝から調子の悪い場合、御自宅でゆっくり休ませてください。

### インフルエンザワクチンについて

インフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからない、というものではありませんが、ある程度の発病を阻止する効果があり、またたとえかかっても症状が重くなることを阻止する効果があります。(ただし、この効果も100%ではない。)

※インフルエンザワクチンの予防効果が期待できるのは、接種後2週間目～5カ月程度までと考えられています。毎年、12月～3月頃に流行するので12月までにワクチン接種を終えることが望ましいでしょう。

厚生労働省HPより

病院でインフルエンザと診断されたら学校にお知らせください。